

令和7年度 第2回中央特別支援学校 運営協議会 報告

1 日 時 令和7年9月26日（金） 午前9時30分～11時30分

2 会 場 本校 高等部12教室

3 参 加 者

（1）学校運営協議委員

静岡市あさはた緑地管理事務所 所長

静岡てんかん神経医療センター 療育指導室長

麻機学区自治会連合会 会長

静岡大学教育学部 准教授

本校PTA会長

（2）校内教職員

校長、副校長、教頭、事務長、各部主事、病弱・訪問主任、寮務主任、教務主任

4 会議次第および議事録（要約）

（1）あいさつ

（2）病弱学級・訪問教育紹介

- ・病弱学級と訪問教育の概要、各学級の特徴、歴史、大切にしていることの紹介。
- ・学びがつながるように転入、転出時の情報交換や関係機関との連携を大切に行っている。扱う物の制限が多い病院内での栽培活動ができるようになり、児童が生き生きと活動でき、復学後の学校生活にもつながった。また、体験や関わり、できる経験を増やすことで、自信につながり、校外での学習も主体的に取り組めてきている。一期一会をテーマに、退院時笑顔で送る会を設け、出会いを大切にしている。

（3）第1回学校運営協議会、前期学校評価を受けた中間報告

- ・キラリホットの視点での取り組みの情報発信を通して、人権を尊重した言動をとることができた。後期は、学部会等を活用して、定期的な情報共有の場を設定し、キラリホットとヒヤリハット未然防止の情報や気づきを気軽に伝え合えるようにする。更に、緊急時対応の情報は、他学部にも迅速に伝達できる体制を整備し、学校全体で対応力を高めていきたい。
- ・「計画的な校内研修の実施」や「専門家を活用した実践的な研修の設定」によって必要な知識を得ることができた。「ICTの活用法」を学び、オンライン教材やイラスト作成アプリを積極的に使うことで、子どもたちが発表するときにアプリを使って表現することができ、学力向上につながった。より良い教育活動のために後期には知識等の学びと実践をよりつなげていきたい。
- ・連携部では今年度から教務課が加わり、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成や見直しの時間を確保でき、児童生徒の目標に沿った学習活動の取り組みができた。今後は、児童生徒の情報を丁寧にフィードバックし、「個別の指導計画」での支援や、「個別の教育支援計画」での将来の豊かな生活に向けて反映していくと共に、特別支援学校の魅力を発信する方法の向上につなげていきたい。また、校内ケース会議を含め、教員間の情報共有の質と量を高めていきたい。
- ・後期に向けて共通する取り組みとして、「会議や打ち合わせ等を活用し、気兼ねなく伝え合う、学んだことをアウトプットする時間を作る」ことがあげられている。この取り組みを進めることは、安全・安心部の成果目標にある、職員自身が自分の考えや意見を安心して伝えられる実感をもつことにもつながると推測する。つまり、本校が大切にしている心理的安全性の高い職場風土づくりへつながる。そのためには、会議や打ち合わせにおける「議題の事前共有」、「論点の整理」、「意見を引き出す質問の投げかけ」、「時間の管理」の力を磨いていくことが求められる。組織内のリーダー中心とし、これらの力をどのように磨いていくかが現時点での課題である。

（4）運営協議会委員からの感想、意見

- ・病訪の集合学習をより安全に取り組めるように今後も病院側も取り組んでいきたい。一人ひとりの微細な動きを捉えながら取り組んでいるベッドサイドの学習にも感心している。移行支援会議



- などを行い始めたが卒業後にどう引き継ぐかが課題。
- 丁寧に現場サイドと引き継ぎたい。卒業生のフォローアップ、声かけなどができるとよい。
- 以前には夏休みに卒業後の様子を見てもらった。声かけや授業参加など年1回でもあるとよい。
- ・「自分も相手も大切にしてほしい」という話をもっと教育の中でも伝えてほしい。危険予知ができない子どもが増えている。実際に危険予知が不十分で交通事故もあった。
- 安全への意識、初動、教員の役割など訓練通りに動けるか、現場で判断ができるかが重要。日々考えてアップデートしている。非常時の気持ちのスイッチの入れ方についてこども病院の医師から助言を受け、繰り返し訓練し、どの教員も対応できるように努めている。
- ヒヤリハットを気軽に挙げにくいことが背景にあるのか、報告が減っている。そのためヒヤリハット未然の情報を楽に伝え合いながら、ヒヤリハットがキラリ&ホットへと変わるように努めしていく。
- ・ヒヤリハットの蓄積が安全につながる。口頭でもよしとするなど報告しやすい工夫も大切。
 - ・「人権」という言葉があったが「尊厳」という言葉がしつくりくる印象を持っている。子どもの権利の保障を実現していることがとても尊い。
 - ・あさはた緑地もぜひ利用してほしい。画像や動画で提供できることもあるかもしれない。
 - ・あさはた緑地でこども病院に入院しているお子さんの兄弟児預かりの協力をはじめた。学校だけでは難しい部分だと思う。もっとフォローできることがあさはた緑地も含めた地域であればよいと思う。
- ヤングケアラーや家族の支援について、あらためて考えていかなければいけないと感じている。個別の教育支援計画の活用などを通じて取り組んでいるところである。
- ・病訪の教育について、とても充実している。一期一会のキーワードもとても大切。
 - ・卒業後など生活の場が変わると「後退」してしまうことが多く、接続の問題がある。学校で幼少期になぜ育たなかつたのかというケースもある。青年期の生き方に課題がある。
 - ・指導部について。インクルージョンされている子どもが増えている。体育や保健など、中央特支から情報発信してほしい。
 - ・連携部について。交流及び共同学習の報告がなかったことが気になった。
- 前期に打合せを行い、後期に実施というケースが多い。今後実施予定である。希望は増えているが、回数を重ねないと難しい部分もある。
- ・次の指導要領では児童生徒も教員もウェルビングであるということが挙がってきている。教員の余力をどう生み出すかが課題。県ではAIの活用を検討しているようだ。
- 個々の児童生徒の多様化により情報共有の必要性がより高まっており、昨年度から教育課程の変更を検討中である。また、論点を整理して伝え合うなど会議の進め方についても改善を図っている。AIを活用した個別の指導計画の作成の研究もはじまっている。
- 仕事の重点化が大切。自分の頭で考える部分とAIを活用する部分の使い分けが大切。
- ・キャリアサポートはどうやっているのか。
- 進路学習や実習等を通じて取り組んでいる。子どもを中心に保護者と学校が一緒に考えていくことが課題。重度の子どもの想いをどう吸い上げるか、守っていくかについて教員もアップデートが必要。
- 今日いただいた意見を10月の職員会議で全体に共有する。すぐにできることと時間をかけて取り組むことがある、活かていきたい。



(6) 今後の予定

第3回 令和7年11月7日（金）9:30～11:30※静岡北特支と合同開催
第4回 令和8年2月17日（火）9:30～12:00